



科学の眼

まなこ

発行:姫路科学館 (〒671-2222 姫路市青山 1470-15 電話:079-267-3961)
<https://www.city.himeji.lg.jp/atom/>

生物シリーズ

日本を代表する桜のはかなき秘密

ソメイヨシノ

Cerasus × yedoensis Masam. & Suzuki 'Somei-yoshino

姫路科学館 学芸・普及担当 長政 浩之

桜といえばソメイヨシノが有名です。春になると一斉に咲き、人々を魅了した後すぐに散ってしまいます。日本人はそのはかなさに心惹かれるのかもしれませんが。この華やかなソメイヨシノには、実は悲しい秘密が隠されているのです。



写真1 ソメイヨシノ

■ソメイヨシノ 誕生秘話

ソメイヨシノは、今でこそ全国各地に分布していますが、江戸時代までは存在していませんでした。諸説ありますが、江戸時代末期から明治初期にかけて江戸の染井村（現在の東京都豊島区駒込）では、たくさんの植木職人達が桜の品種改良に挑戦し、より華やかな桜を目指しました。そんな中、エドヒガンとオオシマザクラを交配して、新しい品種を開発していました。その時に完成したのがソメイヨシノといわれています。エドヒガンの葉より花が先に咲く性質と、オオシマザクラの大きく整った花形を併せ持つ、まさに花見をするにはうってつけの桜だったのです。

■全国へと広がるが・・・

職人の品種改良で完成した素晴らしい品種のソメイヨシノは、若い木のうちから花を咲かせる特性が好まれ、第二次世界大戦後に全国で爆発的に植樹されるようになりました。ところでこのソメイヨシノは、どうやって増えるのでしょうか。ふつう植物は受粉して種子を作り、それが芽吹いて増えていきますが、ソメイヨシノは種子を作ることができず、接ぎ木や挿し木で増やします。と



写真2 姫路城のソメイヨシノ

でも簡単に増やすことができるので、またたく間に全国に広がっていきました。しかし、種子ができないとはどういうことなのでしょう。

■孤独な生涯

ソメイヨシノは、前述したとおり花見向きな桜ですが、「自家不和合性」という、同じ個体では受粉しても種子ができない性質を持っています。そのため、自分の子孫を残すことができないのです。他の桜と交配して種を付けることはありますが、それは純粋なソメイヨシノではありません。現在植樹されている全てのソメイヨシノは、接ぎ木や挿し木をして増やしていった「クローン」なのです。すなわち全国で見られるソメイヨシノの全ては、同じ個体であるということになります。人間に例えると親も兄弟も周りの他人すらいない、天涯孤独の身であるといえるでしょう。

■一斉に開花

種子で増える樹木であれば、一本一本の遺伝子は少しずつ違っているため、同じ地域であっても花が開花する時期がずれるのは当然です。しかし、ソメイヨシノは前述したようにすべての個体が全く同じ遺伝子を持っているため、同じ地域の個体はほぼ同じ時期に開花を始めます。花見に出かけたときにどのソメイヨシノも満開になっているのはそのためです。しかし、地域によって気温差や気象条件の違いが



写真3 一斉に満開を迎える様子

ありますから、地域によって咲く時期が変わってきます。まるで、開花の波が南から北にかけて動いていくようにも見えます。今では日本の桜の約8割がソメイヨシノといわれていますから、ものすごい数が植樹されたということになります。

■ソメイヨシノの今後

ソメイヨシノは樹齢140年のものも発見されていますが、最近の樹木の勢いから平均樹齢が60年ともいわれています。そうすると戦後に各地で植えられた桜も、年月を経てすっかり定着しましたが、そろそろ寿命を迎えることとなります。しかも、どれか一本が病気にかかると、周りも全く同じクローンですから、同じように次々と病気にかかってしまいます。さらに、最近特定外来生物に指定された「クビアカツヤカミキリ」により、大量発生した幼虫が木の内部を食い荒らし、やむなく伐採しなければならないほどの被害も出ています。さらに、寒い時期を過ごさないと開花しないため、温暖化の影響で日本の南の方は開花すらしなくなる可能性もあります。当たり前のように花見をしている現在ですが、いつか見られなくなる日が来るかもしれません。全国各地にたくさん植えられているソメイヨシノですが、様々な苦難と孤独に戦っている^{らんまん}と思うと、爛漫に咲き誇っているのを見たとき、感慨深いものがありますね。

桜写真館はコチラ

